

高橋 美博 議員

資源ごみ収集による 市民負担の軽減を

問 本市のステーション方式の資源ごみ収集は、先進的で評価できるが、自治会役員の大きな負担や、高齢者にとって収集所までの運搬が困難であることなどの問題がある。市はどう考えているか。

答 負担軽減対策として、資源ごみの減量化を推進するほか、市民に分別方法を熟知してもらうことで回収が効率的になり、立ち会い人数の削減、立ち会い時間の短縮につながると考えられる。

問 常設の資源回収ステーションを設置するなど、市民の利便性の向上を図れないか。

答 1月の市民討論会で、休日の集積所を市内数カ所に設けるなどの改善案を提案し、意見を伺った上で、実現に向けた対応をしていきたい。



ステーション方式で行っている資源ごみ回収

障害者の雇用拡大に支援を

問 平成25年4月から障害者優先調達法がスタートし、市も、先調達法がスタートし、市も、調達方針の作成と調達実績の公表が努力義務となる。本市の対応はどうか。

答 庁内への周知、関係団体との調整を行い、今年度中に調達方針を作成する。障害者就労施設に対し、必要な施設整備への助成など、環境整備を積極的に支援していきたい。

寺田 守 議員

学校施設での天井や 照明器具の落下防止対策は

問 東日本大震災では、天井など非構造部材の落下事故が多発した。体育館などの学校施設は避難所にもなっているが、対策は進んでいるか。

答 救護所に指定されている体育館から対策を進め、今年度は4校で既に実施した。今後、全ての学校において、早期に対策を講じていきたい。

爆音車両の取り締まりは

問 市民の安眠を妨げる暴走行為が後を絶たない。取り締まりはどうか。

答 少年補導員による巡回や防犯パトロールを実施している。袋井警察署にも、さらなる夜間パトロールの強化や検挙及び補導の強化を要請していきたい。

協働まちづくり事業と 地域資源の掘り起こし

問 浅羽佐喜太郎や名倉太郎馬、可睡齋の活人剣など、協働まちづくり事業で地域資源の掘り起こしが行われている。今後の市の対応はどうか。

答 地域資源に関しては14事業が実施されている。これらは、魅力あるまちづくりに向けた有効な手段の一つであり、引き続き推進していきたい。



天井等の落下防止対策が進められる体育館